

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年6月)

～天候要因等で季節商材は好調。先行きは気温の推移がカギ～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で上昇、先行き判断も3か月連続の上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、消費者の節約志向は依然として続いているものの、インバウンドによる消費が堅調に推移したほか、梅雨入り後も6月は雨の日が少なめであったことから、季節商材の販売の増加などにつながっている。また、百貨店でクリアランスセール開始が前倒しとなったことも、6月の売上にはプラスに作用している。
- 一方、先行きについては、今後も局地的豪雨などへの警戒が必要となる中、インバウンド関連が引き続き前年を上回るとみられるほか、今夏の猛暑の予想から、季節商品の販売増加への期待が高まっている。ただしその反面、暑くなり過ぎれば客足の減少につながるほか、厳しい残暑による秋物商戦への悪影響も懸念されるなど、猛暑関連では期待と不安の声が入り混じる形となっている。
- プレミアムフライデーについては、百貨店が今夏のクリアランス開始日(6/30)に設定するなど、一部で注目すべき動きはみられたものの、依然として盛り上がる状況が続いている。先行きについても、プレミアムフライデーの効果に関する言及は、残念ながら見当たらない。

「天候条件」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(マネージャー)	・直近の状況は、店全体の店頭売上が前年比7%増と好調に推移している。梅雨の時期ではあるものの、雨に見舞われた日が4日間と、前年の14日間に比べて非常に少ないこともあり、幅広い品目で前年を上回っている。引き続き、化粧品は31%増、特選衣料は35%増と前年を大きく上回り、訪日外国人売上もそれぞれ倍増という状況である。さらに、これまで苦戦が続いていた中間層向けの婦人服、紳士服も、2～3%の伸び率ではあるが、前年を上回って推移している。
	やや良くなっている	百貨店(売場主任)	・梅雨入り後も晴天が続き、衣料品や身の回り品に加え、お中元ギフトの受注も順調に推移しており、月末からのクリアランスセールにも期待がかかる。また、インバウンド売上も相変わらず好調である。
		百貨店(マネージャー)	・6月は天候が安定し、雨の日が少なく、入店客数も前年並みに回復した。中間ボリューム層の買上率が低いなど、消費意欲は低調であるものの、富裕層による宝飾品や時計の購入、リフォーム需要に伴う家具の大口受注で、客単価が前年比で2けた近く上昇したため、全体の業績は好調に推移している。プレミアムフライデーにより、クリアランスセールの開始が当初計画の7月1日から1日前倒しになることも、大きなプラス要因である。
		百貨店(宣伝担当)	・売上が前年比で10%増、入店客数が5%増と好調である。梅雨入り後も天候に恵まれたこともあるが、これまで好調を維持してきた雑貨、特選宝飾品に加え、衣料品の動きが良くなってきたことが大きい。
		スーパー(企画担当)	・梅雨に入ったが、天候は良く、飲料関連、涼味関連の販売量が堅調に推移しており、売上の前年比はプラスとなっている。
		コンビニ(広告担当)	・海外要因だけでなく、国内にも値上げなどのマイナス要素はあるものの、雨の少ないことが好調の大きな要因となっている。
		その他住宅[展示場](従業員)	・住宅展示場への来場数は、天候が良かったこともあり、前年比で2割増である。
	変わらない	百貨店(マネージャー)	・今月は天候に恵まれたが、ファッション商材の客単価は、富裕層や上位顧客が安定的に推移したものの、新規客などの単価は低く、堅実な消費が続いている。一方、インバウンド需要は消耗品が中心であるが、回復傾向となっている。
		その他レジャー施設[飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	・天候要因からすれば、もう少し集客が良くなると思われたが、前年比では伸びていない。

家計関連	やや悪くなっている	スーパー（経営者）	・雨が少ないなど、天候面は順調で、客足も前年並みとなったが、野菜の主力商品の相場安、アニサキス報道による鮮魚の売行き不振、ビール類の値上げなどが重なり、売上の面では非常に厳しい状況が続いている。
		コンビニ（経営者）	・梅雨に入っても雨の日は少ないが、気温の差があるため、クール商材の売行きが不調である。売上は前年比で20%減となっており、それに付随して、おにぎりの動きも低調である。
企業動向関連	なやや良くなっている	広告代理店（企画担当）	・6月に入り、担当施設の売上が前年並みに回復しているなど、プレセールでの売上も好調なスタートとなっている。梅雨とはいえ、雨が少なく、夏のセールの本格的なスタートに向けて、消費者の夏物への購買意欲が高まっていると感じる。
	変わらない	その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・梅雨にもかかわらず、雨があまり降らず、傘の売上もそれほど伸びていない。

「猛暑」関連のコメント(先行き判断・家計動向関連)

家計動向関連	良くなる	家電量販店（店員）	・7月の第1週目の土日は、気温が30度を超える予報であり、エアコンや扇風機が売れると予想している。
		家電量販店（人事担当）	・猛暑により、エアコンや冷蔵庫、洗濯機の販売が伸びる。
	やや良くなる	百貨店（マネージャー）	・富裕層の消費意欲が回復しているため、高額品を中心に需要が増える。今夏は猛暑の予想であり、夏物商品の強化によって需要を取り込みたいが、台風などの発生や、極端な猛暑による来客数の減少が不安要素である。
		コンビニ（経営者）	・今年は例年より暑くなるということで、飲料水の動きが良くなる。また、酒類の安売りができなくなるため、コンビニの利用も多くなり、おつまみ類の売上の増加にも期待できる。
		家電量販店（店員）	・今夏は猛暑が予想されるため、エアコンの販売量は前年よりも増える見通しである。さらに、ボーナス支給後は客の購入率も上がり、セット買いも予想される。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・天候に左右されることが多いほか、6月にビールなどの価格が上がったことで売上は落ちたが、一時的な影響と考えられる。また、今年の夏は厳しい暑さが予想されるため、清涼感のある商品の動きが期待される。
	変わらない	一般小売店〔時計〕（経営者）	・今年の夏は、例年よりも暑くなるといわれている。熱中症対策の必要性から、電気料金の負担が増えても仕方がないという声や、年配客だけでなく、小さな子どもを持つ若い客からも聞かれる。レジャーにもお金がかかるため、当店で消費が回ってくるとは考えにくい。
		百貨店（マネージャー）	・今月は好調に推移しているが、天候要因による影響が大きく、楽観できる状況ではない。特にアパレルでは、前年は7月1日にスタートした夏のクリアランスセールが、今年は今月末にスタートすることもあり、7月の売上減少が予想される。また、メーカーによる減産や、猛暑による夏商戦の長期化もあり、本格的な秋が始まるまでは、アパレルを中心に厳しい状況が予想される。
		百貨店（服飾品担当）	・近年は8～9月の売行きがかなり厳しい。10月初旬までは、一定の気温の低下がみられない状況が続くことから、秋物商材の動きは前年並みにとどまる。また、気温にあまり関係のない、ハンドバッグやアクセサリといったアイテムも、最近では新作の早期買いよりも、じっくりと商材を見極める購入スタイルが定着しているため、初速には期待しにくい。一方、化粧品の伸びは衰える感覚はなく、今後も微増が続くと予想される。
		スーパー（経営者）	・猛暑の予想で、飲料やアイスクリーム、素麺、冷麺などの季節商材の好調が期待される。また、前年は一昨年のプレミアム付商品券の影響で前年比が大きく落ち込んだため、その反動増も期待できる。ただし、今年はお盆休みが少なくなるため、帰省需要への影響が気になる。また、暑くなり過ぎると外出頻度が落ちるため、この2点が懸念材料である。
		スーパー（店長）	・食品は売上の増加要因が見当たらない。衣料品や住居関連品は猛暑需要に期待できるものの、食品の落ち込みをカバーできるほどのボリュームはない。
		スーパー（店長）	・猛暑の予想で、季節商材は堅調な動きが予想される一方、日々の食品への総支出額は抑えられる傾向が続く。
		コンビニ（店長）	・売上、来客数の様子はそれほど変わらず、気温が上がれば売上も悪くなることはない。ただし、求人の不調など、人手不足が経営に影響を与えそうな深刻な問題になっている。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・猛暑による、外食関係への影響が不安視される。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・今月の気温の上昇により、客単価がかなり下がっている。今後2～3か月も暑くなると思われるので、客単価や客足が悪化する。
		タクシー運転手	・例年どおり、天候や季節の変化に左右される。タクシーの利用は、暑くならない限り大きくは変わらない。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルを使うマッサージで、服を脱ぐため、暑い時期には来客数が増加する。
		やや悪くなる	一般小売店〔衣服〕（経営者）
	一般レストラン（経営者）		・良くなる要素が見当たらない。残暑が続けば、商店街の人通りはますます少なくなる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15						16						17												
		月 6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
現状判断	近畿	53.2	51.5	51.9	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7
	(全国)	51.0	50.3	50.2	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0
先行き判断	近畿	54.0	53.7	49.0	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9
	(全国)	52.4	51.7	49.5	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5